

平成22年度 岡崎市立福岡小学校 自主研究発表会 研究会報告

岡崎市立福岡小学校

岡崎市立福岡小学校では、平成22年11月5日（金）午後1時から午後4時30分までの午後日程にて、自主研究発表会を開催しました。市内・市外・県外より約330名もの教育関係者の方々に参観していただき、盛大に開催することができましたことに感謝するとともに、研究会の概要をご報告いたします。

当日は、子どもたちによる「詩の音読・群読」のアトラクションをはじめ、研究全体会・公開授業・授業者と語る会・研究解説助言等様々な内容を盛り込んで研修を深めることができました。

参観していただいた教育関係者の方々からお寄せいただいたご意見・ご感想をもとに、成果と課題を十分に分析して今後も研究を推進していきます。ご参観いただいた教育関係者の方々に深く感謝の意を表すととともに、次のように研究会報告をさせていただきます。

自主研究発表会報告

1 研究主題

からだ意識をもとにした教育実践 —児童詩教育・からだレッスン・読解力育成を中心に—

2 本校の研究について

(1) 児童詩教育の歴史と学校文化

本校の児童詩教育は、約40年間の長い歴史をもち、全国的にも数少ない児童詩教育実践校として特色ある学校として注目されている。全校児童全員の詩を掲載する「学校詩集福岡」は、昨年度で第40号を数え親子2代で詩の学習が継続され、学校文化として定着している。

(2) 現代社会の現状と課題から研究を振り返る

核家族化・機械化など現代社会の抱える問題点として、今の子どもたちには、理解力・表現力が欠けている点が指摘されている。本校でも、子どもが書く詩の表現を見ても、昔に比べて説明的で描写で表現できる子どもが少なくなってきた。これは、人やものとのかかわりが少なく、相手の気持ちが理解できなかつたり、自分の思いを上手に表現できなかつたりする子どもが増えてきた。そこで、今までの児童詩教育の成果と課題を振り返り、今の子どもたちに必要な理解力・表現力を児童詩教育の推進を継続しながら培いたいと考えた。

(3) 研究主題設定の理由

本校では、からだごと相手の気持ちを推し量ることを「酌む」といい、自分のからだを解放して伝えることを「拓く」とした。相手の思いを酌み、からだを拓いて伝えることは、心

と体が一對となっただけでかかわらなければならない。心と体は一對として本校では「からだ」と示し、子どもや教師自身の「からだ」を切り口に教育を推進していくことの重要性を考え、研究主題を「からだ意識をもとにした教育実践」とした。研究領域は、伝統的な児童詩教育を核に据え、理解力表現力を培うために新たに「からだレッスン」を開発し実践した。また、すべての学習の基礎基本として「読むこと」に重点を置いた「読解力育成」を研究に加え、児童詩教育・からだレッスン・読解力育成の3つの領域で研究を推進することにした。

3 研究の実際

(1) 児童詩教育

詩を書くことで感性を培い、豊かな人間性をもった子どもの育成に努める。取材・構想・記述・推敲・鑑賞の段階を踏まえ学習することで、学習指導要領国語科の目標や内容も十分に到達している。児童詩教育は学校の文化から福岡の町の文化へと広がっている。

(2) からだレッスン

「相手の思いを酌みとる」「かかわりながらコミュニケーション能力を培う」「自分のからだを拓いて思いを伝える」ことができるようなレッスンを数多く開発して、ショートレッスンとロングレッスンの2種類のレッスンを通して子どもに理解力と表現力を身につけるように実践を試みた。

(3) 読解力育成

子どもとともに教師も伸びることが教育には大切である。「読むこと」を重点的に指導するために、教師自らの教材分析に力を入れた。また、子どもがしっかりと読み取れるような発問を工夫し、かかわり合う授業を構築できるように研究を推進した。

4 研究会当日の様子

(1) 研究会全体会

自主研究発表会にもかかわらず、遠路高知県や静岡県からの参観者を含め、340名もの来賓・教育関係者が参観し、研究会が開催された。全体会に先立ち、1年生の詩の音読と6年生全員によるからだレッスン【詩の群読を含む】によるパフォーマンスを公開した。特に、6年生のからだレッスンは本校の「めざす子どもの姿」として披露することができた。

研究発表では、研究主任が今までの研究の経過について説明した。

(2) 公開授業

児童詩教育6教室・からだレッスン6教室・読解力育成7教室で特別支援学級を含みすべての学級で公開授業を行った。どの授業も、教師が笑顔いっぱい授業展開に努め、子どもも生き生きとした表情で学習していた。この児童詩教育・からだレッスン・読解力育成の授業は、「知・徳・体」のさらなる基礎となる「感性」を育む教育として、教育関係者から高い評価をいただく授業公開となった。

(3) 授業者と語る会【分科会】

本時の授業の良かったところはどこか、どうしたらより良い授業につながっていくか、教師も授業の振り返りが必要である。この「授業者と語る会」【分科会】は、授業を参観した教師と授業者がより良い授業に向けて情報交換する場として設定した。各分科会記録から、「自分の学校でも取り入れたい」「一度自分の授業で実践してみる」など、高い評価とともに「この発問をもう少しこのように問いかけるともっと子どもが理解できる」などの助言もいただき、積極的かつ建設的な分科会となり、今後の研究に生かしていきたい。

(4) 研究解説と助言【講演会】

愛知県総合教育センター基本研修室室長（元本校校長） 水野 達彦 先生

からだレッスンを本校に取り入れた先生であり、子どものためにどのような教育が必要なのかを示唆していただいている。わたしたちの研究について温かく見守っていただきながらも「厳しく」「的確に」ずっと継続して本校の助言者として指導していただいている。

「子どもを育てるためにはまず指導者である教師が伸びなければならない」この合言葉を常に研究に取り入れ実践している。わたしたちは、「学級の子どもの特徴をつかみ課題を明確にすること」「教師自身の課題を明確にすること」「子ども一人一人に丁寧にはたらきかけること」「授業内容の振り返るとともに指導方法についても振り返り、成果と課題を検証すること」このような考えのもとにこれからも福岡小の教育が推進されていく。

5 地域の学校として

福岡学区は歴史と伝統のある街。温かくみんなで子どもを育てる街。本学区に赴任しているも感じています。今回の研究会を開催したところ、地域・学区関係者の皆様方から多大なるご理解ご協力を賜りました。これからも地域の学校として、学校と家庭・学校と地域が連携して教育を推進していこうと思います。地域の方々に感謝して本研究発表会報告とさせていただきます。



写真
研究発表会 全体会

アトラクション

6年生の群読・からだレッスン
「耳をすます」 から

